

ゲストティーチャーからスマートフォンの適切な使用について学び、グループで話し合い、スマートフォンの使い方についてルールを決める事例 —親子情報モラル教室—

生活

小学校 第6学年 総合的な学習の時間

授業づくりのポイント

- 事前の調査により、児童の携帯電話及びスマートフォンの所持及びSNS等の利用状況やその環境について実態を把握する。
- 朝の会や帰りの会等で、スマートフォンやインターネット利用時の情報モラル等について指導する。
- 全校朝会や長期休業日前の全校集会等において、スマートフォン等の安全な使用について講話を行ったり、警察やスクールサポーターとの連携を図り、セーフティ教室等の機会を捉えて、ネット犯罪や情報モラルについての指導を行ったりする。
- 総合的な学習の時間「パソコンを使おう」や各教科での調べ学習でのインターネット利用時などに、ネットモラルに関して指導したり、東京都教育庁指導部作成のDVD教材「守ろう！インターネットのルールとマナー」や、映像教材を活用しスマートフォンやSNS等の危険性について学習したりする。
- 児童同士の話し合いや保護者との話し合いを通して、SNS等の利用について親子でルールを決める必要性を学ぶことができるようにする。

単元について

- 1 単元名 「スマホがほしい！—そのためのルールは？—」
- 2 目標  
スマートフォン、携帯電話等使用時の危険について理解し、安全に行動できるようにする。
- 3 教材化の視点  
年齢が上がるにつれて、SNS等を使った友達とのトラブルや不適切な使用が増加している。  
また、小学校段階にあっては、携帯電話、スマートフォンの所持率は低い、ほとんどの児童が利用可能な状況にある。  
今後、児童がスマホなどの機器を使い、トラブルを起こしたり、犯罪に巻き込まれたり、その危険にさらされたりする状況が増えることが予想される。  
セーフティ教室やパソコンを活用した授業等で情報モラルやインターネットの危険性については指導している学校が多いが、その危険性に対する実感が児童に伴っていない様子が見られる。体験的な学習により、情報モラルの重要性やインターネットの危険性を自分自身の身近な問題として捉える必要がある。また、保護者と連携することで、効果的に指導を行う。

指導計画（5時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1-3	「話し合ってみよう、ネットやスマホのあんな問題、こんな問題！」 ○スマートフォンでの友達とのやりとりやゲームにのめり込んで、約束が守れない事例から、どうしたらよいか話し合う。	◎今まで学んだスマートフォンや携帯電話の危険性を思い出し、確認する。 ◎ルールの必要性を知る。
4 (本時)	「スマホがほしい！そのためのルールは？」 ○スマートフォンを持つ上でのルールについて、保護者と話し合う。	◎親子で話し合い、家庭におけるルールの重要性、必要性を理解させる。

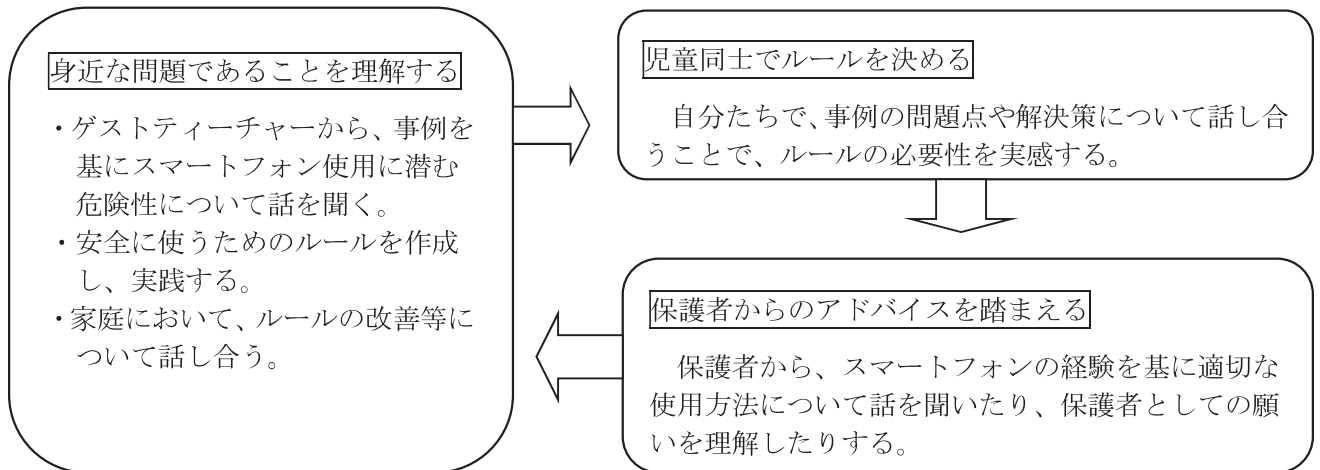
<b>5</b>	『「〇〇家のルール」を発表しよう!』 ○各家庭で話し合った内容を発表し合い、家庭でのルールの改善の参考とする。	◎ルールをしっかりと使って使用するという気持ちを高める。
----------	------------------------------------------------------------	------------------------------

**指導事例（第4時／5時間）**




**1 ねらい**

- ・事例を基にしてスマートフォンの危険性を学び、トラブルの回避策を考えることができる。
  - ・スマートフォンの使い方を自分たちで考え、保護者と話し合いながら、安全に使うためのルールを作ることができる。
- 【I-5-①~⑤】

**2 ポイント**



**3 指導の実際**

	時間	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
<b>導入</b>	5分	○ゲストティーチャーの話を聞き、自分の身に起こることとして捉える。 ・ゲストティーチャー：「ファミリ eルール」担当者	◎前時まで学習したことと、講師の話から、携帯・スマホの危険性について確認する。 
<b>展開</b>	10分	○事例を基にしたゲストティーチャーの話を聞きルールの必要性について考える。 （ワークシート① 個人活動） ○ワークシートを基に発表する。	◎提示された事例について、問題点・解決策を考えさせることで、ルールの必要性を理解させる。
	15分	○グループで話し合い、ルールを考える。 （ワークシート② グループ活動） ○児童はグループの大人の意見を聞きながら、ルールを考える。 ○ワークシートに書いたルールをグループごとに短冊に書いて発表する。	◎「ルールを決めないといけない」という意見を引き出し、ルール作りの動機付けとする。 ◎現在所持していない児童も、持ったときに「自分ならスマホをどう使いたいか」という視点をもって、考えるように助言する。 ◎一グループに必ず大人（保護者・教員）が入る。
<b>まとめ</b>	10分	 	◎大人には自分自身の経験や使い方を踏まえて、助言してもらう。
	5分	○各グループから出たルールで、共通のもの、外せないものを見付け、家庭でのルール作りに生かせるようにする。	◎安全に使うためのルールであることを確認する。 ■ルール作りに積極的に参加し、安全な使い方を考えているか（ワークシート・発表）。

#### 4 児童のワークシートの記述から

こんなとき、あなたがA君の母親だったらどうしますか？

ある日小学校6年生のA君がお母さんに頼みごとをしています。

A君：「お母さん、B君はスマホを買ってもらったんだって、いいなあ。ぼくも欲しいよ。塾の迎えに来てもらう時もお母さんに電話できるし、便利だよ。買ってよ。」

母親：「スマホは確かに便利だけど、いろいろ危ないこともあるし、まだ早いんじゃない？学校でも危険と隣り合わせって習ったでしょ。」

A君：「大丈夫だよ。電話として使うだけだよ。お母さんも使ってるじゃん！」

母親：「料金だって高いのよ。電話だけって言うけど、そのうちスマホゲームに夢中になって、勉強しなくなるのも心配だよ。」

A君：「使いすぎないから大丈夫だよ！ちゃんと勉強もするから、今度の誕生日に買ってよ。友達と連絡取れないと、ぼくだけ仲間はずれになっちゃう。」

○スマホは便利だけれど、使っているうちに親に秘密でアプリをダウンロードして、それに夢中になって変なボタンを押して、課金や架空請求に巻き込まれる可能性もあることを教える。また、「フィルタリングをかけること」や「毎日親に見せること」などのルールを決める。

○スマホ使用の影にある危険なことや課金のこと、パスワード・名前・住所などの個人情報を漏らさないことについて教える。スマホゲームには制限をかけ、ゲームができないようにする。

#### 作ってみよう！スマホのルール

##### ♪時間・場所のルール

- 宿題が終わってから使う。
- 夜10時以降は使わない。
- 親のいる場所で使う。
- 暗い場所では使わない。
- 使用は1時間以内とする。

##### ♪使い方のルール

- お金がかかるときは、家の人に相談する。
- 困ったことがあったら、すぐに相談する。
- ゲームにお金を使わない。
- あやしいサイトに入らない。
- メールで悪口を書かない。
- 親の許可なくアプリを入れない。
- 購入時には、フィルタリングをかける。

#### 児童の変容

- スマートフォンは便利なものであるが、使い方によって様々な危険に遭うことを知り、気を付けて使おうとする児童が増えた。
- 親子で話し合い、一緒にルールを作ることで、自らルールを守ろうとする児童が増えた。